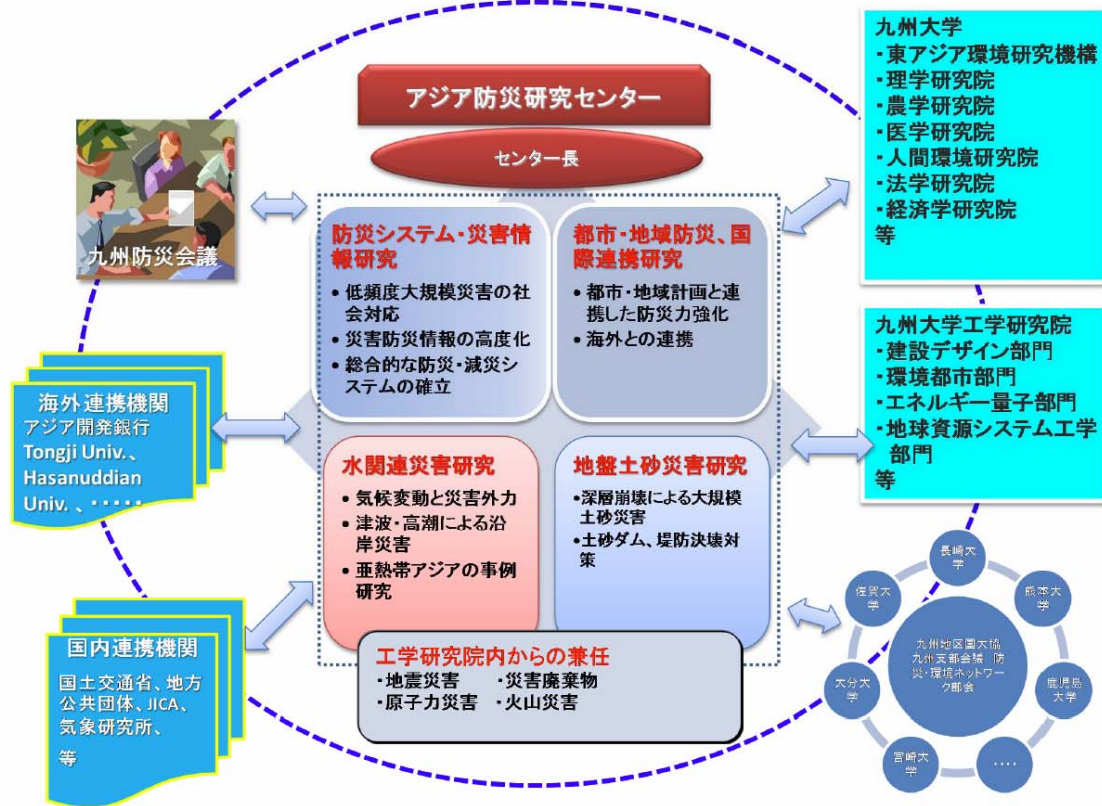

九州大学箱崎キャンパス
跡地利用将来ビジョン検討委員会 第3回委員会参考資料

九州大学・福岡市

目次

構成	頁
アジア防災研究センターについて	1



九州大学自然災害情報ネットワークステーション

専用光回線による双方向通信接続

W2-430号室

九州地方整備局 災害対策本部

九大伊都キャンパス緊急防災情報センター

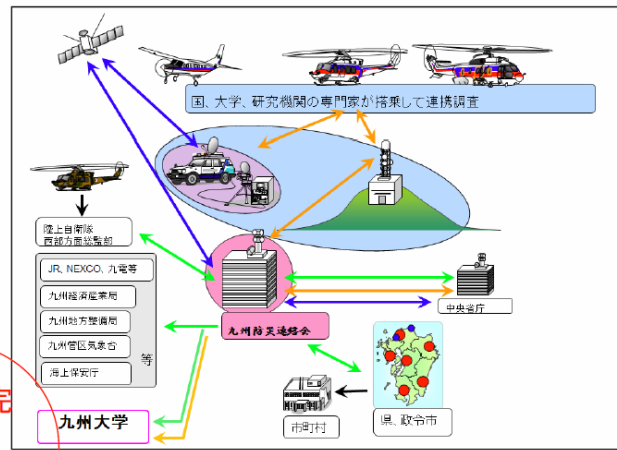
災害時の映像共有

現地リアルタイム災害データ

・国土交通省との専用回線による膨大な行政情報との接続、大規模災害時のリアルタイム、生データ活用。地方公共団体の防災情報ネットワークとの接続も可能。

・九州地区国立大学連携事業 - 防災・環境ネットワークのハブとして防災分野の社会貢献、研究活動を主導するためのテレビ会議システム、情報パネルの設備

- ・大学では整備できない観測データの利用
- ・災害発生時の画像やデータを即時提供
- ・ネットワークを活用した、学術的見地からの助言の要請
- ・災害情報の学術的アーカイブの整備のための情報提供

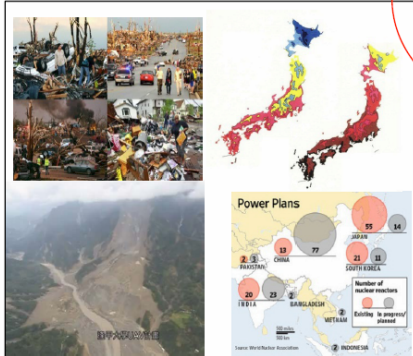


リアルタイム相互情報共有ネットワーク

相互補完するWIN-WIN関係

助言の提供
情報の解析
災害アーカイブの提供

- ・災害アーカイブの開発、提供
- ・災害データ解析による地域貢献
- ・ネットワークを活用した、学術的見地からの助言
- ・地域防災計画策定等への助言



2012. 5. 22 西日本新聞朝刊

ネットに情報公開へ

なつて作業班を設置し、郷土史家や市町村にも協力を呼び掛ける。DBには、各自自治体のハザードマップも掲載。キーワードや日時のほか、国土地理院の電子地図からも情報を検索できるようにする。閲覧は誰でも可能で、書き込みも原則自由。ただし、情報の正確さを判断する。

（中野剛史）

九州の土木技術者や研究者をつくる土木学会西支部福岡市は21日、大学や市町村などで保管している九州の災害・防災資料を一つにまとめたデータベース（DB）を作ることを決めた。国土交通省九州地方整備局や

土木学会西部支部

や津波、洪水、火山噴火の発生時期、規模、被災状況、写真などの情報。電子化された情報だけでなく、数百年前の文書の内容も取り込む。九地整をほしめ国の機関が資料を提供するほか、九州各県で大学教授らが中心と

九州の災害資料DB化